WA!

No.26

わのわなばなし　行き先が分かる安心

　みなさんは、路線バスに乗られることがありますか。お使いで買い物に出かけたり習い事に行ったりする時に乗るという方、きっとおられることでしょう。日本ではバスは、どこでも場内アナウンスがあったり、電光掲示板で「次は○○」と行き先を知らせてくれます。海外から来られた方にも英語や中国語の表記やアナウンスがあって、それを頼りに乗ることができるでしょう。

　普段、乗り慣れたバスならともかく、例えば旅行先では、乗り間違えていないかなとか、どこで降りればいいんだろうかなと少し不安を覚えることがあります。だからこそ、車内で行き先を知らせてくれることはありがたく、子どもだけでバスに乗らなければならない場合でもちょっと安心できます。

　しかし、日本以外では必ずしも行き先を教えてくれません。韓国や台湾では、バスに場内アナウンスも掲示板もありません。全ての責任は、自分。言葉も違うので、事前に路線も場所もちゃんと調べ、降りるべき場所を意識していなければならないのです。

　日本では、寝ていたり本を読んだりして車内で過ごしている人が多いでしょう。しかし、他国でそうしようものなら、うっかり全然思ってもいないところに行くかもしれないのです。ただ、日本でも乗り降りの停留所は知っておかなければなりません。子どもが実際に着くまでは親は心配で仕方ないことでしょう。

　阿弥陀さまは、お浄土という行き先を私に教えてくださっています。迷いの中にある私に確かな行方をお示しくださっているのです。

（広陵東組西應寺 平 慈敬）

中・四国ブロック研修会開催報告

前期指導者学習会
ペン習字と落款印作り

後期指導者学習会
発達障害の子ども達への理解と接し方

編集長のイチ推シ！
マツダミュージアム

子どもの声が聞こえるお寺に

2017（平成29）年度 中・四国ブロック 少年連盟指導者研修会 備後教区

平成29年6月26日～27日、中四国ブロック少年連盟指導者研修会が備後教区担当のもと福山市内のホテルで開催され77名の参加がありました。

1日目は囲碁棋士九段の安田泰敏先生より「向き合うことの大切さ」をテーマにご講演いただきました。先生は祖父の影響で囲碁を始め、16歳でプロになり、1994年より「ふれあい囲碁」活動を始められました。その活動のきっかけはある中学生の自殺報道でした。人間関係に悩んでいたという少年の遺書を見たときに、言葉をこえて人と人をつなぐものはないかと思い立ち、ひとつのきっかけになればと「ふれあい囲碁」を考案されたそうです。

囲碁棋士九段 安田泰敏先生

「ふれあい囲碁」は実際の囲碁と比べ、より簡易なルールで、「ルール説明は30秒でできます」と言われるように、小学生にも理解しやすいもので、それをお互いの共通語として対局していきます。その普及活動は全国の学校や少年院、また海外へも広まっているそうです。「ふれあい囲碁」の良さは初対面であってもルールがわかれば性別や国籍、あらゆる垣根を越えて交流できるところにあります。研修では参加者が実際に「ふれあい囲碁」を用いて30分間ランダムに相手を探し次々に対局をしました。初対面の相手でも一手一手お互いに反応しあう面白さがあり、言葉を交わさずとも人に向き合っているという充足感がありました。

参加者全員で「ふれあい囲碁」の対局を楽しんだ

そして、研修の後半では参加者がいくつかの班に別れ、班の一人ひとりが夢を語り、最後に誰の夢に共感したかを投票しました。先生の活動では夢を語ることを大切にしているということでありました。人の夢を聞き、何か自分に手伝えることがあるかもしれないと気づくことにより、お互いが分りあい繋がっていけるということを大切にしていきたいという思いをお話いただきました。研修を通して「ふれあい囲碁」のもつ可能性と、そこに存在する言葉を越えた関係性の大切さを教えていただきました。

2日目は「染物屋さんのお絵かき体験」として、シンコー株式会社の布に絵が描ける顔料の絵の具「かけるくん！」を使い、手提げバッグに思い思いの絵を描きました。色を塗る際、色の数が限られているが、色と色を混ぜ合わせて変化することを楽しんで欲しいというねらいがあるというお話がありました。実際に色を混ぜ合わせると、微妙な量の違いで、様々な色ができあがり、色作りも楽しむことができました。マスキングテープで色がつかない部分を作ったり、トイレットペーパーの芯やペットボトルキャップで丸形のスタンプを作ったり、小さく切ったスポンジで色を塗ったりと、身近にある物を使って絵を描くことも大変参考になりました。完成したバッグはお土産として記念に持ち帰りました。

ふれあい囲碁や手提げバックへのお絵描き体験、また、ブロック内の同じ子ども会活動をされている方々との情報交換など、大変実りの多い二日間でした。

絵の具感覚で布に筆で描ける「かけるくん！」アイロンをかけると洗濯もできます

個性豊かなバッグができました

染色の絵の具を使ってバッグにお絵描き

検索 シンコー　かけるくん　ホームページ　http://www.somesome.co.jp/

study

前期指導者学習会

ペン習字と落款印作り

平成２９年６月１２日（月）
於：本願寺広島別院安芸門徒会館共命ホール

文字を書くときのバランスや気をつけることを丁寧に教えていただきました

実際にナモアミ学習帳を使って練習

落款印作りに使うもの

てん刻用の消しゴムを彫刻刀で彫っていきます

前期指導者学習会を永井あけみ先生・向井りえ先生を講師にお迎えし行いました。はじめに、ナモアミ学習帳「らいはいのうた」を用いてペン習字を学びました。文字を書く時、文字の中心と左右のバランスを考えるときれいな文字になるとのお話を聞き、１文字１文字、書くときのポイントを学びました。

続いて、消しゴムを使った落款印作りを行いました。先生は子ども達に書道を教える時、楽しい気持ちを持って欲しいとの思いから、落款印作りを取り入れているそうです。実際に彫刻刀で消しゴムを彫り落款印を作ってみると、自然に集中でき、また、参加者同士で完成した落款を見せあうなど、楽しい時間を過ごすことができました。

自分の書いた作品に手作りの落款を押すことで、作品としての喜びを味わうことができるのではないかと思いました。

後期指導者学習会

平成３０年３月２２日（木）
於：本願寺広島別院安芸門徒会館共命ホール

発達障害の子ども達への理解と接し方

後期指導者学習会では、臨床心理士・スクールカウンセラーの武田正文師（山陰教区・邑智東組・高善寺）を講師にお迎えし、「発達障害の子ども達への理解と接し方」についてご講演いただきました。

今回の研修では、子ども会等でも見られる事例などを交えて、支援の方法を考えてみました。じっと座っておくことがしんどく立ち歩いてしまう子どもには、配布物をお願いして意図的に立ち歩ける状況を作ってあげるなど具体的な支援の方法や、無理をさせてでも座らせておいて、座れるようになったことが正しいことではなく、その子本人がどう思っているかを考えることが大切であると教えていただきました。

安芸教区少年連盟では様々な講師をお招きし学習会を開催しています。是非連盟への加盟登録をお願いいたします。

ナモアミ学習帳

書いて味わう写経ノート

らいはいのうた
正信偈

・大人も子どもも使える写経ノート
　＊初めはお手本をなぞって書きます
　＊次は自分で書いてみます
・ご門徒の皆様にも喜ばれています

安芸教区少年連盟（本願寺広島別院内）にて頒布　　２００円

編集長のイチ推シ！

マツダミュージアム見学

マツダミュージアム

今回は府中町マツダ本社工場内にある、マツダミュージアムを訪れました。

本社工場では１日最大 4,000 台もの生産力があり、工場で使う電力の 70%をまかなう発電所や工業技術短期大学まであります。

ミュージアム館内には「第１回日本カーオブザイヤー」を受賞した 1980 年ファミリアや、「世界カーオブザイヤー」と「世界カーデザインオブザイヤー」を史上初の同時受賞した現在のロードスター、世界初の２ローターロータリーエンジン搭載車 1967 年のコスモスポーツや、ル・マン 24 時間耐久レースを制したロータリーエンジン搭載のレーシングカー「マツダ 787B」など、他にも多種多様な車種が展示してあります。

ミュージアム見学ツアーの１番の見所は車の組み立てラインが見学できるところ。

「Made in Hiroshima」のものづくり。広島の発明を世界の喜びに繋げるマツダさんを、広島県民として誇りに思います。

見学は無料ですが、土日・GW・お盆・年末年始は休館日、開始時間の定まった定員予約制のツアーとなっています。

ショップでは限定のグッズも販売しています

所在地　〒731-0611
広島県安芸郡府中町新地３－１
電話番号　082-252-5050
料　金　無料
見学方法　見学は完全予約制。
電話もしくはインターネットで予約を行います。
団体は２０名～。
個人でも申し込み可。
所要時間は団体１時間、
個人 1.5 時間（バスの移動時間も含む）

検索　マツダミュージアム　ホームページ　http://www.mazda.com/ja/

発行日／平成 30(2018) 年６月 15 日　発行所／安芸教区少年連盟　広島市中区寺町 1-19 本願寺広島別院　代表者　委員長　久保田城郷　●安芸教区の HP　http://aki.or.jp/